

昨夜からの雨がやむように願っていて朝を迎えると、雨から雪に変わり、そして、雷も鳴り響いていました。本来であれば、暖かくなりというあいさつを用意していましたが、この天気を見て、ネットで雷のことについて調べました。由来などが定かではないのですが、雷は、「再生や再スタートの象徴、人生における変革や覚醒を示す、大きなチャンスが巡ってくるサイン」などという言葉を見つけました。まさに今皆さんの卒業式にふさわしい言葉だと思いました。雪の降る中、雷が皆さんの卒業を祝ってくれていると思います。これもまた忘れられない記憶として卒業後も皆さんの中に残っていることになるのではないのでしょうか。

改めまして、189名の卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様、お子様はここに9年間の義務教育の全課程が修了いたします。感慨もひとしおのことと存じます。お子様のご卒業心よりお祝い申し上げます。

また、本日は御多用のところ、教育部長白倉克彦（しらくらかつひこ）様はじめ、多数のご来賓の皆様にご参列いただき、まことにありがとうございます。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、皆さんが入学した3年前の入学式で、こんな話をしました。

小学校6年生、最高学年として、それぞれの小学校で活躍してきたと思います。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の対応として、これまで『当たり前』だと思ってきたいろいろなことが、中止や自粛となり不安や寂しい気持ちもまた実感したのではないのでしょうか。コロナ禍の約2年間、そんな経験をした皆さんであればこそ、『当たり前』に感謝し、今できることを精一杯やろうという気持ちで生活してきたと思います。新型コロナウイルス感染症の収束が見られず、制限のある生活は続くことになるとは思いますが、小学校で身に付けた力に加え、これから花小金井南中学校の生徒としてさらに多くの経験を重ねて成長しながら素晴らしい中学校生活を送ることができると信じています。そして、多くの経験を通じて自分に自信をもてるようになってほしいと願っています。

皆さんが、中学2年生になってすぐに、新型コロナウイルス感染症が感染症法では5類となり、インフルエンザなどと同じような対応となりました。生活での制限がなくなり、多くの活動ができるようになりました。中学生らしく学習や学校行事、部活動などができる生活が「当たり前」となりました。本当に良かったと思います。

皆さんと関わり、日々の活動を見ていると、私が思っていた通り、皆さんは、この「当たり前」にできることに感謝し、全力で取り組み、他者との関わりを大切にして互いに支え合う姿を見ることができました。落ち着いた学校生活を送り、優しい気持ちをもって他者と関わるからこそ、大きなトラブルもなくあたたかい雰囲気が感じられる学年集団として成長できたのだと思います。

あたたかい雰囲気ということで、ひとつ紹介したいことがあります。

今日、一番最後に卒業証書を受け取ったのは、7組の〇〇さんです。3年前、他県からの転入ということで、保護者の方と〇〇さんの2人で花南中に面談に来ました。小平市内から7組への進学する生徒が一人もいない状況の中、たった一人で入学式に参加しました。その日になるまで、同級生が他に一人もいないことは知らなかったはずですが、ただでさえ、他県からの転入であり、心配なことだらけであった中学校の入学が、さらに自分一人だと知った時の気持ちは、想像することも難しいくらい、大きな不安があったと思います。それでも、すぐに7組の先輩たちと仲良くなり、学校を休むこともなく、3年間過ごし、今日の日を迎えることができました。2年生の後半から、修学旅行を通常の学級の生徒と一緒に生活することを目標にして、交流を進めました。これもまた、簡単なことではなかったと思います。

一人で通常の学級の教室に行き、一緒に授業を受けたり、話し合いをしたりして少しずつ距離が縮まってきました。修学旅行は、当たり前のように、通常の学級で3日間過ごしました。

自分の進路に向けて私と面接練習をしたときに、〇〇さんは「もっと早く交流授業をしておけばよかった」と言っていました。嬉しい一言でした。

〇〇さんの努力は言うまでもありませんが、それをあたたかく迎え入れ、同じ学校で生活する同じ学年の仲間として一緒に関わっていた長沼さんを含むここにいる卒業生の皆さんの素晴らしさを感じます。校長としてこのような「花南中のあたたかい雰囲気」は本当に誇らしいです。

もう一つ、入学式で伝えたことがあります。

3年間の中学校生活を修了し、卒業するときに『花小金井南中学校で良かった。この学校で学んだことを誇れる』と実感できるように頑張ってください。

ということです。皆さんは3年間を振り返り、今どんな気持ちでいますか。

花南中は様々な面で厳しいと地域で言われています。私はそんなことはないと思っていますが、一つ言えることは、生徒の皆さんが、先生たちから伝えられたことを素直に受け止め、仲間とともに精一杯やろう気持ちがあり、それによって集団がどんどん成長していく環境にあったということです。

先生たちのスローガンは皆さんに何度か伝えてきましたが、「鍛える 自信をつける」です。これもひとつの例ですが、花南中の体育の授業で思い浮かべるのは、12分間走（クーパー走）ですね。呼吸法を学び、心拍数の計測をして、12分間トラックを走るという取組です。12分走ることはとても辛いと思いますが、仲間が伴奏し、ラップタイムなどを伝え、励まし、走り切ります。単元のはじめに計測した走破距離と、後半に計測した走破距離は比べ物にならないくらい記録が伸びています。また、3年間の比較でいえばさらに大きな成長を感じられたのではないのでしょうか。自分がこんなにも走ることができるなんて思わなかった。継続すること、積み重ねること、粘り強く取り組むことから活動でも、自分を鍛え、自信につながると思います。「鍛える 自信をつける」卒業生の皆さんも何かの活動を通じてそんなことを感じることはできているではありませんか。

『花小金井南中学校で良かった。この学校で学んだことを誇れる』と実感できていたら嬉しいです。

最後に、私が大事にしている言葉を紹介します。アメリカ合衆国第16代大統領リンカーンさんの言葉からの引用です。「意志あるところに必ず道あり」一般的には、「道は開ける」と訳されていますが、私はいつも「必ず道あり」と思っています。努力すれば何でも報われるのか、夢に向かって努力すれば必ず叶うのか。必ずしもそうとは限りません。それでも、例え、目指していた道ではなかったとしても、その先には必ず道はあるのです。志をもって努力したことは決して無駄にはなりません。

志をもって努力したとすれば、どんな道が待っていたとしても、納得して前に進めるはずで「意志あるところに必ず道あり」です。

自分を信じて、あわてず焦らず一歩ずつ前に進んでください。明るい未来が皆さんの前に大きく広がっているはずで

卒業生の皆さんの前途が幸多いことを祈り、校長式辞といたします。

令和7年3月19日
小平市立花小金井南中学校
校長 堀井 賢治

別れの言葉

【代表生徒1】

入学式。私たちの心の中では緊張、不安、期待、様々な感情が交差していた。当然、知らない人の方が多く、常に緊張感が漂っていた。小学校とは違い、先輩という存在が遥かに大きく見えた。そんな中学校という新しい環境で私たちの新たな生活の幕が開けた。みなさんは覚えていますか。ランチョンマットを敷き、黙ってお弁当を食べていたあの時間を。私たちは前を向き、ただ黙々とご飯を食べ、感染症対策に努めていた。それでも私たちの初めての運動会、合唱コンクールが3学年合同で行われると聞いたときには心が躍った。どの学年、どのクラスも全力を出し、勝利を目指すあの瞬間は学校が一丸となるようで私はとても好きだ。新たなメンバーと新たな環境での生活に不安も多く抱えていたが、行事や日々の生活を通し、学年としての結束力が強まった一年目であった。

【代表生徒2】

1年生から成長した2年生。初めての後輩ができ、中学校生活にも慣れ、勉強・部活動共に充実した一年間だった。五月、それまでは当たり前だったマスクをする必要がなくなり、お互いの顔を合わせて話せるようになった。それがより一層明るい学年となるきっかけになった。運動会や都内巡り、合唱コンクールなど、こうした行事は、この学年の明るさからなる団結力によって成し遂げられたのだと思う。そうした全校行事や日々の学校生活でやはり目にしていただいたのは、先輩方の背中だった。常に私たちの模範として動き、引っ張ってくれる力強さを実感した。後期からは私たちが学校を中心となった。何もかもが手探りの中、頑張り続けることができたのは、いつの間にか頼もしくなっていた後輩、尊敬してやまない先輩の存在、そしてお互いを支え、助け合える、この学年の明るさと団結力によるものだった。そして着々と最高学年へ向けて成長していった。

【代表生徒3】

私たちは最高学年となった。自覚と責任、受験への不安。一人一人が様々な思いを抱えていた。そんな中で迎えた中学校最後となる運動会。学年種目は「ムカデ競争」。巻いた縄で足首が毎日痛む。ケガをする仲間もいた。そんな中でも一人一人が勝利を目指して全力を尽くした。ゴールした時のことはあまり覚えていない。しかし、勝敗関係なくみんなが喜んでいただと思う。私たちの団結力はより強くなった。修学旅行は、一年生のスキー教室と二年生の都内巡りの集大成のような、行動範囲が広い宿泊学習だった。暑さの中、様々なトラブルがあったが、それも良い思い出かもしれない。十月、最後の合唱コンクールを迎えた。私たちは先輩の姿を思い浮かべていた。心に響く合唱を。今から歌うのは、私たちがつくり上げたたった一つの「大地讃頌」。

「大地讃頌」

【代表生徒 7組】

3年前、7組でのスタートは同級生が誰もいなかった。入学式の時にそれを知り、とても寂しかったことを覚えている。そこから僕の中学校生活が始まった。でも、学年が上がるにつれ寂しさを感じなくなった。それは、7組での学校生活がとても楽しかったからだ。昼休みにサッカーをして遊んだり、一緒に愚痴を言い合ったりすることが、僕にとって本当に楽しかった。後輩の皆がいてくれたからこそ、先輩としての自覚も、もつことができた。

7組での一番の思い出は球技大会だ。またいつか、あの5人のチームでバスケットをした。僕と一緒にバスケットをしてくれてありがとう。

同級生同士のコミュニケーションの取り方を学んだのは、通常級との交流だ。交流した3組は、雰囲気がとても温かいクラスだった。合唱コンクールで声をかけてくれた時は本当に感動した。

3年間の学校生活を振り返れば、先生方には、多くの場面でご迷惑をかけましたが、優しく寄り添いながら、今日まで導いてくださってありがとうございます。

最後に、僕には夢があります。それは、保育士になるという夢です。僕は、保育士になっているいろんな子供たちと触れ合いながら頑張っていきます。

先生方、ボランティアの方、そして後輩たち。今まで本当に世話になりました。ありがとうございます。

7組で過ごした日々を忘れずに、僕は自分の輝く未来を切り開いていきます。

【代表生徒4】

合唱コンクールが終わって卒業に近づき、私たちは新たに始まる生活を楽しみにしている。一方で環境が変わり、今の友達や先生との別れ、今後への不安もある。しかし、今もこの先も決して孤独になることはない。今まで共に過ごしてきた友達や先生がいるからだ。本当に困ったとき、苦しんだとき、自分の気持ちを出せなかったとき、いつもそばにいてくれた先生方。優しい言葉、そのときにもらってうれしかった言葉、たとえ厳しい言葉だとしても先生からかけてもらった言葉は心に響いた。先生と出会ったこと、関わったこと全てが私たちの宝物となるだろう。そんな思い出が未来へ進む私たちを後押ししてくれる。

【代表生徒5】

そして、3年間共に過ごしてきた青学年の仲間たち。教室でふざけて笑い合ったり、同じ目標に向かって部活動に真剣に取り組んだり、行事の結果に喜んだり、涙を流したり…様々な感情を味わってきた。そんな記憶のページを振り返ると、どのページにも必ず仲間の姿があった。そんな当たり前の温もりがあった長いようで短い3年間の終わりが近づいてきている。もう時間は巻き戻せない。「またね」という言葉を交わすのも、今日で最後になるかもしれない。だからこそ、今まで私たちのそばにいたたくさんの仲間たちに感謝の気持ちを込め、公開を残さないよう私たちらしく歌い切ろう。それが、代わりなきぼくらの証となるだろう。

「証」

【代表生徒6】

周りの友達や先生方が支えてくれたのは、日々の生活だけではなく。3年間の中で一番の壁とも言える受験に向かう中で、助けてもらった場面も多くある。終わりの見えない受験勉強に不安を感じていたとき、友達や先生が声をかけてくれた。同じ目標に向かう仲間がいたからこそ、苦しみは軽くなり、高い壁にも諦めずに立ち向かうことができた。喜びを分かち合ったことで、それは何倍にも大きくなった。長かった受験への道のりを振り返ると、たくさんの苦労の一つ一つがかけなえのないものだったことに気づいた。その時、受検という壁を乗り越えさせてくれた、どんなときも一番そばで見守り続け、支え続けてくれた、家族の存在の大きさを知った。

【代表生徒7】

たくさん迷惑をかけ、行き場のない苛立ちや不安をたくさんぶつけた。でもそこにはいつも優しく抱きしめてくれたあなたがいた。迷ったとき、苦しいとき、そっと背中を押してくれたあなたがいた。いつでも温かく見守ってくれたあなたがいた。中学校3年間だけでなく、今まで15年間育ててくれた家族のみんな。普段は恥ずかしくて言えないけれど、心の中ではわかっている。義務教育が終わる今日まで育ててくれて、支えてくれた、生んでくれた本当にありがとう。私たちは大人になって、いつかあなたたちの手から離れる時が来るかもしれないけれど、それまでもうしばらくはお世話になります。これからも私たちを近くで見守っててください。

【代表生徒8】

そして今日、この日をもって、人生で一度きりの虫賀港生活が幕を閉じる。私たちはそれぞれの進路に向かって、一步一步自分の力で進んでいく。この先大きな壁にぶつかることがあるかもしれない。しかしこれまでの道のりで支えあい、切磋琢磨して積み上げてきた経験こそが私たちの大きな力となる。期待に胸を膨らませ、前に進む勇気を持とう。私たちの未来には、無限の可能性が広がっている。まだ見ぬ世界で、さらなる成長を遂げるため、私たちは新たな道へと歩き出す。別れは始まり、思い出を胸にあたらしい風に背中を押されて、一步踏み出そう。輝きに満ちた世界への希望とこれまで支えてくださったすべての人々への感謝を胸に。

送ることば

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。初めて3年生の皆さんにお会いしたのは、2年前の新入生体験入学のときでした。私は、「中学校ってどんなところなのだろう。」と何もかも分からないことばかりで、不安な気持ちでいっぱいであったことを今でもよく覚えています。しかし、そんな不安も学校を優しく案内してくださり、廊下いる私たちに笑顔であいさつをしてくださった先輩方のかっこよくて優しい背中に引っ張られ、いつのまにかなくなり、「もっと知りたい。」というワクワクに変わっていました。入学してからも、多くの場面で先輩方の大きな背中に支えられてきました。委員会活動などでは、常に優しく、温かく接してくださり、後輩を引っ張っている先輩方の姿を見てその姿に憧れを抱いていました。

部活動の仮入部ではどの部活動の先輩方も活動の内容や部活動の魅力などを、ていねいに分かりやすく教えてくださいました。そして一生懸命活動している先輩方の姿を見て、自分もこんな風になりたいないと思いました。

初めての合唱コンクールでは、真剣な表情で、全員で息を合わせて歌う迫力ある合唱を聞いて、体が震えました。学年が一つ違うだけなのに、そこには、大きな壁がありました先輩方は常にお手本のような存在であり、私達の支えでした。優しく、暖かく、時には厳しいことも伝えてくださりました。私達は進級し、最高学年になります。先輩方が築いてくださった花小金井南中学校の伝統は必ず私達が受け継いでいきます。くじけそうになった時は、先輩方の姿を思い出してのりこえていきます。先方もどうか花南での数々の思い出を忘れず、明るい未来を切り開いてください。優しくて頼りになる先輩方ならきっと大丈夫だと思います。

私達も自信を持って道を切り開いていきます。改めまして、この2年間本当にありがとうございました。これから新しい一歩を踏み出し、前進していかれる3年生の皆様の、更なるご活躍を心よりお祈りして送る言葉とさせていただきます。

令和7年3月19日
在校生代表2年 代表生徒